

今日よりいいアースへの学び

持続可能な開発のための教育(ESD)

と ユネスコスクール



United Nations
Educational, Scientific and
Cultural Organization



UNESCO
Associated
Schools

ESD(持続可能な開発のための教育)とは？

ESD(**E**ducation for **S**ustainable **D**evelopment: 持続可能な開発のための教育)とは、将来にわたって**持続可能な社会を構築する担い手を育む教育**です。

現代社会の様々な課題を自らの問題として捉え、身近なところから取り組むことにより、それらの課題の解決につながる新たな価値観や行動を生み出し、それによって持続可能な社会を創造していくことを目指す学習や活動です。

ESDは、**第2期教育振興基本計画（平成25年6月策定）**に、我が国の教育の重要な理念の一つとして位置付けられており、**学習指導要領(平成20年、21年公示)**にも、持続可能な社会の構築の観点が含まれています。

国連決議により、2005年からの10年を「国連ESDの10年」とし、ユネスコを主導機関として、世界的な取組が進んでいます。

日本ユネスコ国内委員会

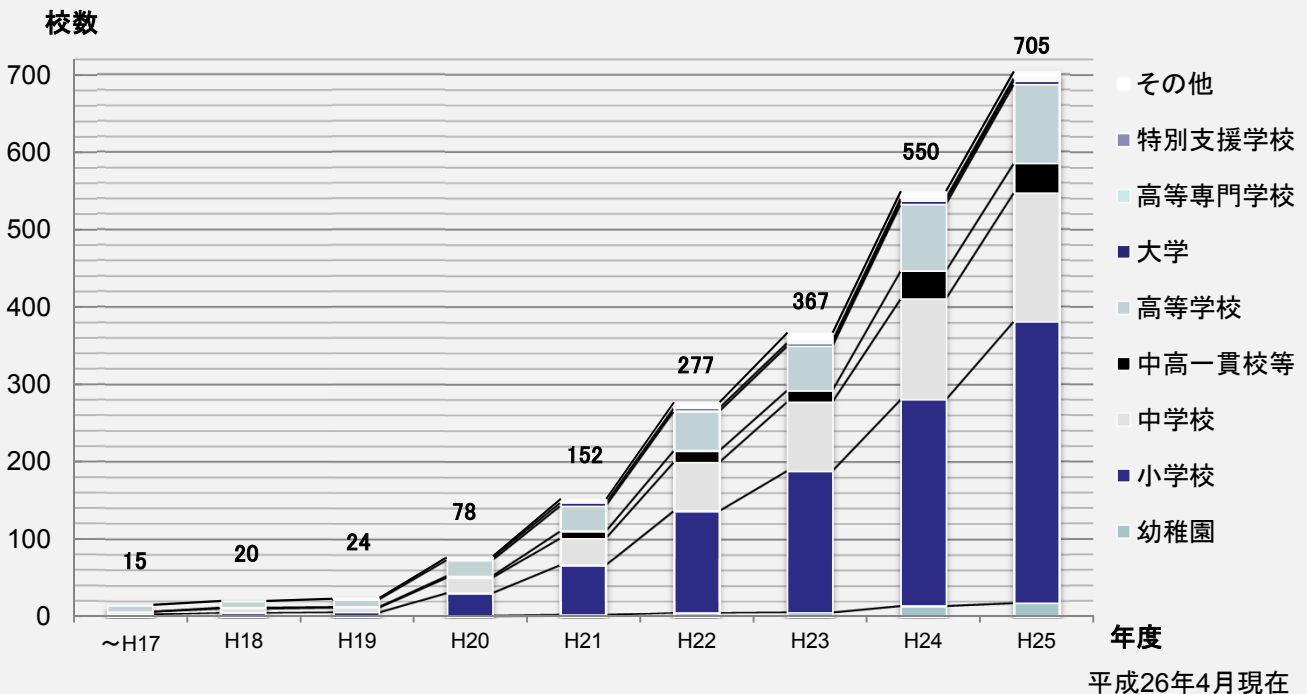
ESDにより育みたい力

- 持続可能な開発に関する価値観（人間の尊重、多様性の尊重、非排他性、機会均等、環境の尊重等）
- 体系的な思考力（問題や現象の背景の理解、多面的かつ総合的なものの見方）
- 代替案の思考力（批判力）
- データや情報の分析能力
- コミュニケーション能力
- リーダーシップの向上

ユネスコスクールはESDの推進拠点です

文部科学省及び日本ユネスコ国内委員会では、**ユネスコスクールをESDの推進拠点と位置付けて**います。ユネスコスクール加盟校数の増加を図るとともに、その質を確保するため、**ユネスコスクールガイドライン**を策定しました。

ユネスコスクール加盟校の推移



ユネスコスクールとは？

ユネスコ憲章に示された**ユネスコの理想を実現するため、平和や国際的な連携を实践する学校**であり、ユネスコが認定する学校です。

現在、世界180以上の国・地域で9,900校以上のユネスコスクールがあります。

日本国内の加盟校数は705校です（平成26年4月現在）。

◎ユネスコ憲章（抜粋）

第1条 目的及び任務

1 この機関の目的は、国際連合憲章が世界の諸人民に対して人種、性、言葉又は宗教の差別なく確認している正義、法の支配、人権及び基本的自由に対する普遍的な尊重を助長するために教育、科学及び文化を通じて諸国民の間の協力を促進することによって、平和及び安全に貢献することである。

ASPUivNet

ユネスコスクール支援大学間ネットワーク

日本の特色ある取組として、ユネスコスクールに助言・支援をしています。



岡山大学：平成25、26年度 ASPUnivNet事務局

ユネスコスクールガイドライン

(平成24年8月20日 日本ユネスコ国内委員会)

ユネスコスクールとして大切なこと

ユネスコスクールの活動には、次のようなことが大切ですので、各学校におかれては、これらの点を念頭において活動いただくことを期待しております。

- ・国内外のユネスコスクール相互間のネットワークを介して、互いに交流相手の良さを認め合い、学び合うこと。
- ・地域の社会教育機関、NPO等との連携などを通じて、開かれたネットワークを築くよう努めること。
- ・校内外における各種研修の充実・活用を図るなど、ユネスコスクールの活動を通じて広く学校外にも働きかけ、我々人類社会が持続的に発展するよう心がけること。
- ・学校経営方針等にユネスコスクールの活動に取り組むことを明確に示し、学校全体で組織的かつ継続的にユネスコスクールの活動に取り組みやすくすること。
- ・ユネスコスクールの活動を自らの学校評価の項目に盛り込み、活動の質の向上に努力すること。
- ・必要に応じ、ASPUnivNet^[1]加盟大学をはじめとする高等教育機関の支援や協力を得ながら、ユネスコスクールの活動の充実に努めること。

持続発展教育^{*}（ESD）推進拠点として大切なこと

ユネスコスクールが持続発展教育（ESD）推進拠点として発展していくには、次のようなことが大切ですので、各学校におかれては、これらの点を念頭において活動いただくことを期待しております。

- ・持続発展教育（ESD）を通じて育てたい資質や能力を明確にし、自分で、あるいは協働して、問題を見出し解決を図っていく学習の過程を重視した教育課程を編成するよう努めること。
- ・総合的な学習の時間を中心とした教科横断的な指導計画を立てるなど、指導内容を適切に定め、さらに、指導方法の工夫改善に努めること。
- ・持続発展教育（ESD）の推進拠点として、研究・実践に取り組み、その成果を積極的に発信することを通じて、持続発展教育（ESD）の理念の普及に努めること。

^[1] ユネスコスクールのパートナーとして、ユネスコスクールの活動を支援する大学のネットワーク。

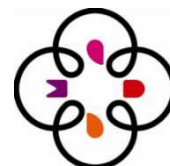
持続発展教育(ESD)とは、持続可能な社会づくりの担い手を育む教育であり、その中には、国際理解、環境、多文化共生、人権、平和、開発、防災などのテーマ・内容が含まれます。従って、持続発展教育(ESD)で取り上げるテーマ・内容は必ずしも新しいものではありません。むしろ、それらを持続発展教育(ESD)という新しい視点から捉え直すことにより、個別分野の取組に、持続可能な社会の構築という共通の目的を与え、具体的な活動の展開に明確な方向付けをするものです。また、それぞれの取組をお互いに結び付けることにより、既存の取組の一層の充実発展を図ることを可能にします。

持続発展教育(ESD)の実施においては、「人格の発達や、自律心、判断力、責任感などの人間性を育むこと」や、「他人、社会、自然環境との関係性を認識し、関わり、つながりを尊重できる個人を育むこと」の観点が必要です。持続発展教育(ESD)の理念は、現行の教育振興基本計画(平成20年7月策定)に盛り込まれていますし、学習指導要領(平成20年、21年公示)で示されている「生きる力」という理念にも通ずるものです。

※「持続発展教育」とはユネスコスクールガイドライン制定時に使用していたESDの訳語です。現在では、「持続可能な開発のための教育」という訳語を使用しています。

持続可能な開発のための教育(ESD)に関するユネスコ世界会議

- (1) 愛知県・名古屋市で開催される閣僚級会合及び全体の取りまとめ会合
2014(平成26)年11月10日(月)から12日(水)
11月13日(木)国内の関係者によるフォローアップ会合開催
- (2) 岡山市で開催される各種ステークホルダーの主たる会合
①ユネスコスクール世界大会
2014(平成26)年11月6日(木)～8日(土)
- ②ユース・コンファレンス
2014(平成26)年11月7日(金)
- ③持続可能な開発のための教育に関する拠点の会議
2014(平成26)年11月4日(火)～7日(金)



ESD
AICHI-NAGOYA



ESDオフィシャルサポーター



さかなケン
東京海洋大学
客員准教授



白井貴子
シンガーソングライター



松岡修造
プロテニスプレーヤー
&スポーツキャスター



山崎直子
宇宙飛行士

応援します！ ESD

ESDスローガン

「あなたの毎日が、未来になる」

趣旨：自分たち一人一人が毎日身近なところから行動を起こすことが、持続可能な地球の未来につながる。

■お問合せ先

文部科学省国際統括官付(日本ユネスコ国内委員会事務局)

TEL: 03-5253-4111

担当(内線2602・3401・3402)、ユネスコスクール・ナショナルコーディネーター(内線2595)

FAX: 03-6734-3679

e-mail: jpnatcom@mext.go.jp

※ESDの詳細やユネスコスクール申請方法については下記URLをご覧ください。

【ユネスコスクールHP】 <http://www.unesco-school.jp/>

2014年7月作成